

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果

草津市教育委員会

令和7年8月8日

調査概要と結果

- 調査の目的**
 - ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 - ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
 - ・教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 調査実施日** 令和7年4月17日（木）
- 調査対象**
小学校調査 市内公立小学校6年生 1,358人
中学校調査 市内公立中学校3年生 1,151人
- 調査内容**
 - ①教科に関する調査**（小学生：国語、算数、理科 中学生：国語、数学、理科）
 - ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
 - ・知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等
 - ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査**
 - ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
 - （例）学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、基本的生活習慣等、家庭学習の状況 など
- 調査の方法**

◎小学校

1時間目	2時間目	3時間目	※1
国語(45分)	算数(45分)	理科(45分)	児童質問調査 (20分程度)

※1 4月18日(金)～4月30日(水)のうち1日(学校ごとに指定)

◎中学校

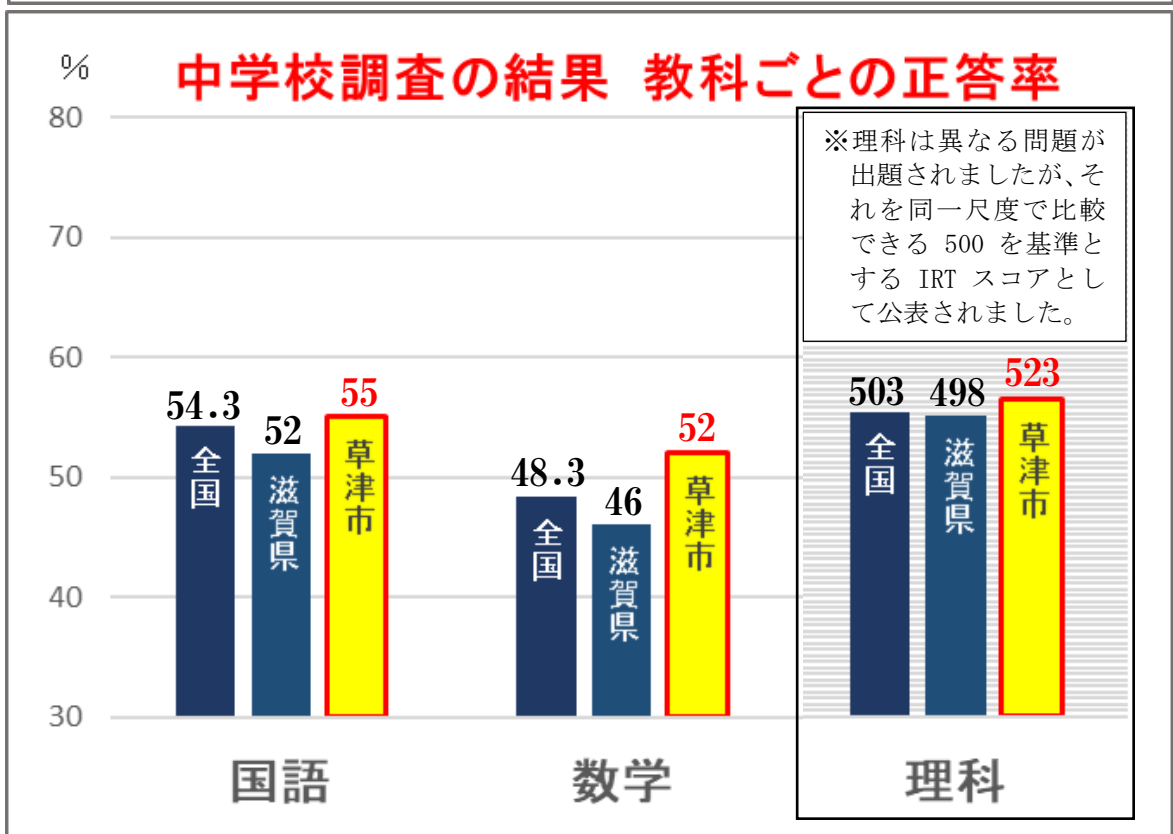
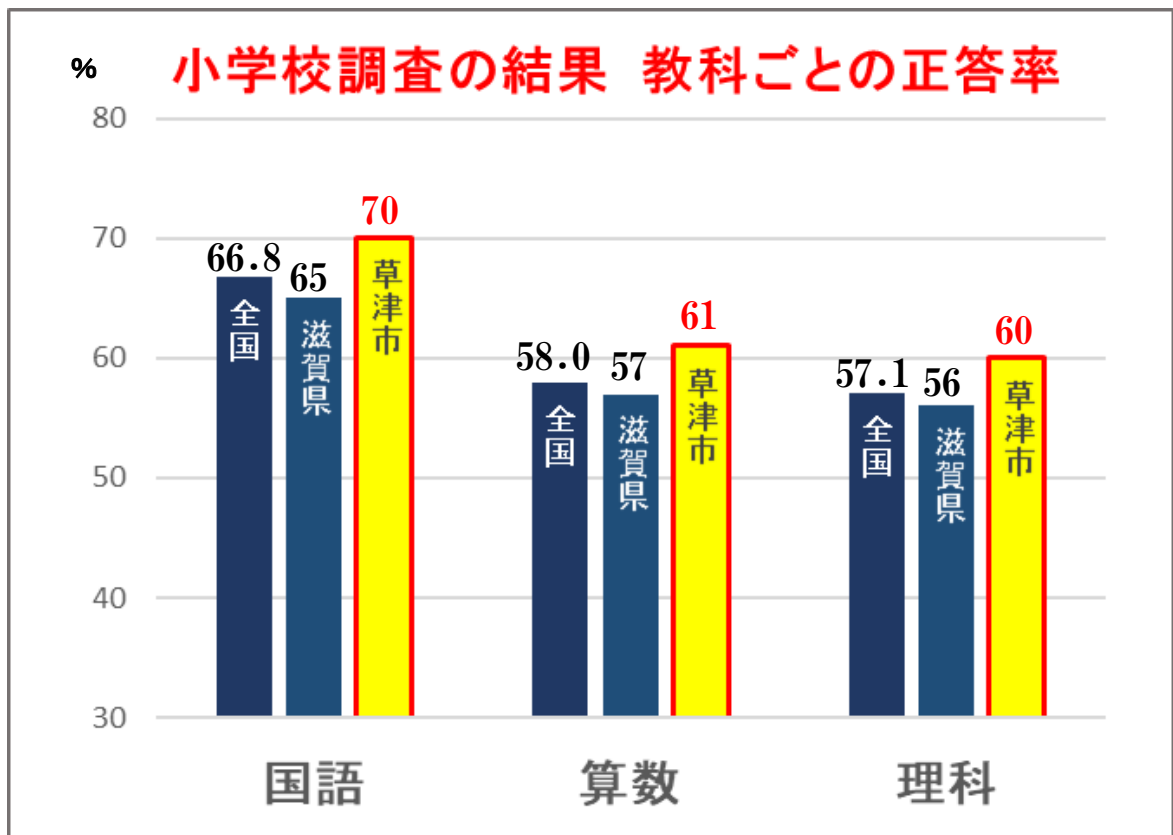
1時間目	2時間目	※2	※2
国語(50分)	数学(50分)	理科(50分)	生徒質問調査 (25分程度)

※2 4月14日(月)～4月17日(木)のうち1日(学校ごとに指定)

教科に関する調査結果

教科に関する調査では、小中学校の正答率が、国語、算数・数学、理科いずれも全国平均と滋賀県平均を上回る結果となりました。

※平均正答率について、全国は小数点以下第 1 位の数値、県や市は整数値で公表されています。



生活習慣や学習環境に関する調査結果

◆児童生徒に対する調査

＜小学生＞

※数字は、質問に対して「当てはまる」「どちらかという当てはまる」と答えた児童の割合を表示しています。

小学生を対象にした「児童質問紙調査」 71 項目の結果を掲載します。

(単位：％)

	質問項目	草津市	全国
1	朝食を毎日食べている。	94.8	93.7
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	82.2	81.9
3	毎日、同じくらいの時刻に起きている。	91.9	91.0
4	家では主に日本語で話している。	99.0	98.4
5	自分には、よいところがあると思う。	86.8	86.9
6	先生は、わたしのよいところを認めてくれていると思う。	92.7	92.2
7	将来の夢や目標を持っている。	81.0	83.1
8	人が困っているときは、進んで助けている。	94.8	93.7
9	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。	98.1	97.2
10	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。	69.6	70.6
11	人の役に立つ人間になりたいと思う。	97.9	96.4
12	学校に行くのは楽しいと思う。	87.4	86.5
13	自分と違う意見について考えるのは楽しい。	81.3	78.1
14	友達関係に満足している。	91.8	91.7
15	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある。	93.9	93.0
16	分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている。	83.9	81.7
17	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり2時間以上、勉強している。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	30.8	24.9
18	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり1時間以上、PC・タブレットなどの ICT 機器を、勉強のために使っている。（遊びなどの目的に使う時間は除く）	14.5	19.6
19	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり2時間以上、勉強している。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	22.7	21.5
20	学習塾の先生か家庭教師の先生に教わっている。（オンライン授業の場合も含む）	53.3	43.9
21	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり1時間以上、読書をしている。（電子書籍の読書を含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）	17.5	15.2
22	家には、およそ101冊以上の本がある。	39.6	30.9
23	新聞を週に1～3回程度以上読んでいる。	11.5	10.5
24	読書は好き。	70.5	69.7
25	これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがあった。	81.3	80.6

	質問項目	草津市	全国
26	地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがある。（習い事の先生は除く）	39.5	39.4
27	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。	83.7	81.3
28	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を週1回以上使用した。	90.4	89.7
29-1	自分はPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成することができると思う。	87.0	81.8
29-2	自分はインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思う。	92.6	89.8
29-3	自分はPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思う。	72.3	69.3
29-4	自分はPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思う。	80.0	76.7
30-1	ICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。	83.3	81.3
30-2	ICT機器を活用することで、分からないことがあった時に、すぐ調べることができる。	90.1	89.2
30-3	ICT機器を活用することで、楽しみながら学習を進めることができる。	88.0	85.5
30-4	画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよくわかる。	91.5	88.1
30-5	ICT機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる。	81.1	77.6
30-6	ICT機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる。	89.4	84.6
30-7	ICT機器を活用することで、友達と協力しながら学習を進めることができる。	90.2	87.5
31	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた。	68.5	68.6
32	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。	80.0	80.3
33	5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。	78.2	77.8
34	5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。	84.8	83.4
35	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	86.9	84.9
36	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。	80.0	79.4
37	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う。	83.2	82.5
38	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う。	85.7	87.4
39	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。	93.3	91.9
40	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。	83.3	82.3

	質問項目	草津市	全国
41	学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。	84.7	83.3
42	学級活動における学級での話し合いを生かし、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。	81.2	80.8
43	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。	88.7	88.0
44	国語の勉強は得意だ。	62.7	61.4
45	国語の勉強は好きだ。	57.9	58.3
46	国語の授業の内容はよく分かる。	84.1	82.8
47	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。	92.7	90.4
48	国語の授業で、先生は、わたしの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれる。	75.9	78.2
49	国語の授業で、先生は、わたしの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれる。	73.6	75.5
50	国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたりくわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いている。	82.3	81.8
51	国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けている。	79.2	79.1
52	算数の勉強は得意だ。	61.3	60.3
53	算数の勉強は好きだ。	54.9	57.9
54	算数の授業の内容はよく分かる。	80.7	78.3
55	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。	93.5	91.6
56	算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できている。	84.6	83.3
57	算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。	84.1	82.3
58	算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っている。	61.9	65.5
59	小数や分数の計算をするとき、工夫して計算しようとしている。	82.3	80.6
60	理科の勉強は得意だ。	77.1	78.4
61	理科の勉強は好きだ。	79.8	80.1
62	理科の授業の内容はよく分かる。	89.1	88.9
63	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。	84.8	79.9
64	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたい。	30.5	30.0
65	理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できている。	64.6	63.2
66	自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしている。	69.4	68.9
67	理科の授業では、観察や実験をよく行っている。	93.1	92.4
68	理科の授業では、問題に対して答えがどのようなになるか、自分で予想（仮説）を考えている。	87.3	85.7
69	理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えている。	90.2	88.4
70	理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えている。	76.5	76.0

	質問項目	草津市	全国
71	健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てている。	81.3	80.0

《中学生》

※数字は、質問に対して「当てはまる」「どちらかという当てはまる」と答えた生徒の割合を表示しています。

中学生を対象にした「生徒質問紙調査」70項目の結果を掲載します。(単位:%)

	質問項目	草津市	全国
1	朝食を毎日食べている。	90.9	91.2
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	79.1	81.0
3	毎日、同じくらいの時刻に起きている。	92.0	92.6
4	家では主に日本語で話している。	99.3	98.5
5	自分には、よいところがあると思う。	83.3	86.2
6	先生は、わたしのよいところを認めてくれていると思う。	92.5	92.2
7	将来の夢や目標を持っている。	66.1	67.5
8	人が困っているときは、進んで助けている。	88.7	90.9
9	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。	95.9	95.9
10	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。	75.4	73.2
11	人の役に立つ人間になりたいと思う。	97.1	96.6
12	学校に行くのは楽しいと思う。	86.0	86.1
13	自分と違う意見について考えるのは楽しい。	78.5	79.2
14	友達関係に満足している。	91.3	91.4
15	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある。	91.0	91.6
16	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている。	73.9	77.5
17	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり2時間以上、勉強している。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	39.8	30.8
18	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり1時間以上、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っている。（遊びなどの目的に使う時間は除く）	10.0	13.7
19	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり2時間以上、勉強している。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	35.9	32.5
20	学習塾の先生か家庭教師の先生に教わっている。（オンライン授業の場合も含む）	71.2	56.9
21	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり1時間以上、読書をしている。（電子書籍の読書を含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）	8.0	9.6
22	家には、およそ101冊以上の本がある。	31.3	27.2
23	新聞を週に1～3回程度以上読んでいる。	6.4	5.7
24	読書は好き。	55.6	61.6

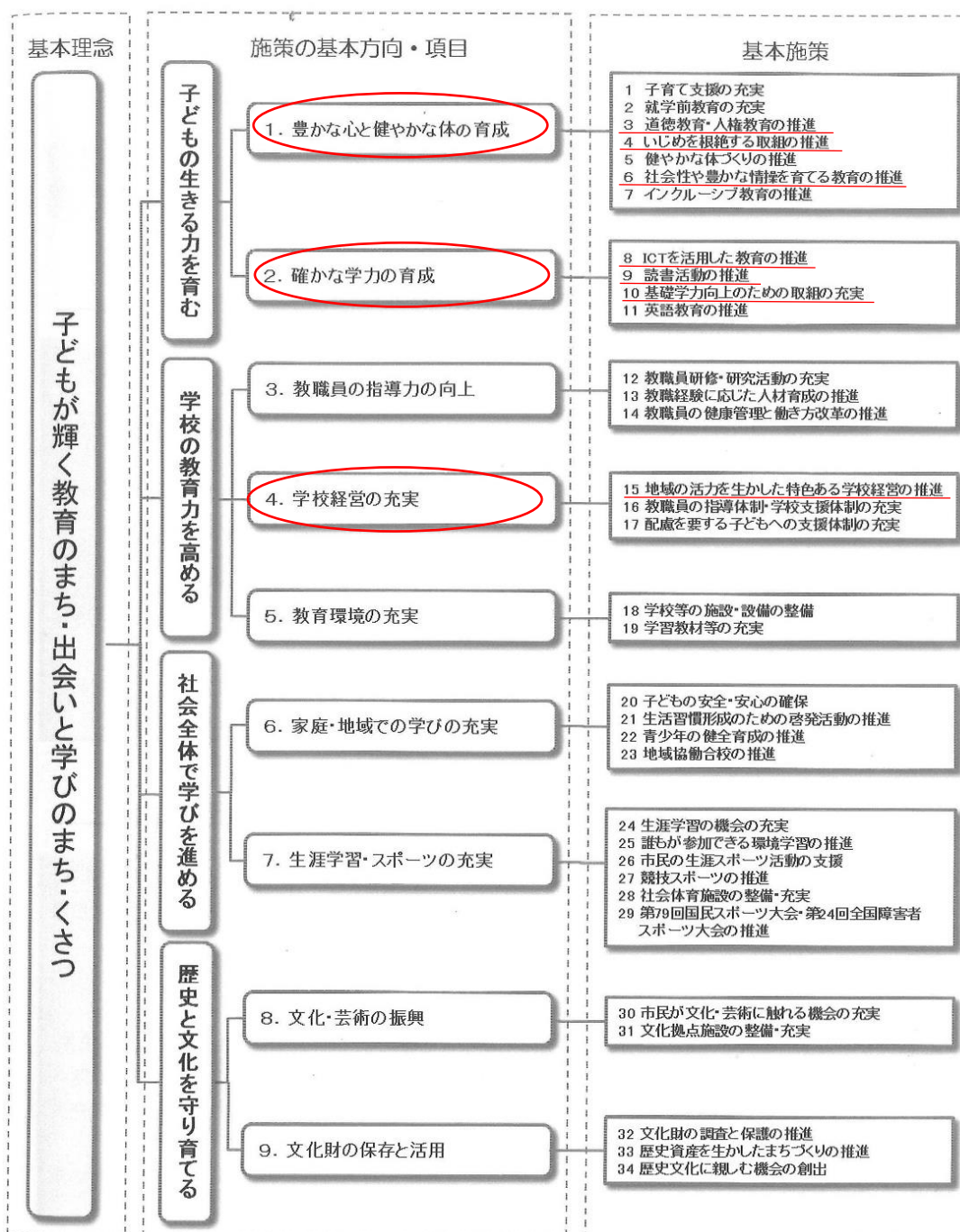
	質問項目	草津市	全国
25	これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがあった。	73.2	75.7
26	地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがある。（習い事の先生は除く）	24.9	29.5
27	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。	73.0	75.3
28	1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を週1回以上使用した。	94.3	92.2
29-1	自分はPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成することができると思う。	80.7	83.6
29-2	自分はインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思う。	89.7	91.5
29-3	自分はPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思う。	57.0	63.3
29-4	自分はPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思う。	75.4	76.6
31	1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた。	56.3	63.0
32	1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。	75.1	77.7
33	1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。	67.6	70.6
34	1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。	77.2	79.3
35	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている。	84.5	84.7
36	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。	71.0	73.4
37	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う。	72.3	74.8
38	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う。	82.8	83.8
39	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。	91.9	91.9
40	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。	77.8	79.5
41	学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。	81.9	84.3
42	学級活動における学級での話し合いを生かし、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。	74.7	77.3
43	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。	90.9	91.5
44	国語の勉強は得意だ。	45.2	51.4
45	国語の勉強は好きだ。	53.6	57.9
46	国語の授業の内容はよく分かる。	72.3	77
47	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。	86.7	88.3
48	国語の授業で、先生は、わたしの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれる。	74.7	72.9

	質問項目	草津市	全国
49	国語の授業で、先生は、わたしの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれる。	73.3	70.2
50	国語の授業で、文章を読み、その文章の構成や展開に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えている。	67.3	74.0
51	国語の授業で、文章を書いた後に、読み手の立場に立って読み直し、語句の選び方や使い方、文や段落の長さ、語順などが適切かどうかを確かめて文章を整えている。	67.8	73.6
52	数学の勉強は得意だ。	53.8	46.0
53	数学の勉強は好きだ。	59.4	53.8
54	数学の授業の内容はよく分かる。	72.5	70.3
55	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。	78.0	75.2
56	数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できている。	59.6	57.9
57	数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。	77.5	76.2
58	数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っている。	49.5	58.6
59	文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができる。	67.8	67.1
60	理科の勉強は得意だ。	49.8	50.7
61	理科の勉強は好きだ。	59.8	63.8
62	理科の授業の内容はよく分かる。	68.9	71.4
63	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。	61.9	63.4
64	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたい。	20.3	21.7
65	理科の授業で学習した知識を普段の生活の中で活用できている。	52.1	54.7
66	理科の授業で学習した考え方を普段の生活の中で活用できている。	46.3	50.7
67	自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしている。	51.2	56.2
68	理科の授業では、観察や実験をよく行っている。	77.8	85.8
69	理科の授業では、自分の予想（仮説）をもとに観察や実験の計画を立てている。	64.5	70.2
70	理科の授業で、課題について観察や実験をして調べていく中で、自分や友達の学びが深まったか、あるいは、新たに調べたいことが見つかったか、振り返っている。	64.0	68.4

調査結果の分析と今後の手立て

1. 「国語、算数・数学、理科」の問題をそれぞれ分析し、本市の成果と課題を考察しました。
2. こどもの日頃の生活や学習習慣に関する質問項目を7カテゴリーに分けて、成果と課題および考察を一覧にしました。
3. 第3期草津市教育振興基本計画（令和2年度から令和6年度）のうち、施策達成状況が読み取れるものを一覧にしました。
4. 第4期草津市教育振興基本計画（令和7年度から令和11年度）との関連を一覧にしました。
5. 調査結果をもとに、第4期計画に沿った今後の手立てを公表します。

【図1】第3期草津市教育振興基本計画施策体系図



1. 「国語、算数・数学、理科」の問題分析

【小学校 国語】

(1) 出題の趣旨

令和4年度から引き続き3つの大問と14の小問が出題されました。

「読むこと」の領域では、複数の資料を読み比べ、自分の考えの理由として適しているものを選び、記述する力が問われました。また、「書くこと」の領域では、文章を書く目的を意識し、その目的に合った書き表し方を工夫する力が問われました。

出題全体を通して、児童の興味・関心に基づいた学習活動の設定や、児童が目的をもって説明的な文章を読んだり、それをもとにした対話を通して自分の考えを広げたりまとめたりできるような単元の構成の重要性について示されていました。

3つの大問ではいずれも、友だちに相談したり、話し合ったりする場面が取り上げられました。友だちとの交流により、自分が収集した情報が適切かどうかを確かめたり、自分が書いた文章をより良くしたりするなど、交流の目的が示されたよ。



(2) 結果

①成果

- ・「知識及び技能」「思考力、判断力、表現等」を評価する全ての問題の正答率において、全国平均を上回る結果でした。
- ・問題形式ごとの正答率では、「選択式」「短答式」「記述式」全てにおいて、平均正答率が全国平均を上回りました。
- ・全ての問題において無回答率が全国平均以下でした。

②課題

- ・「目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけることができるかどうか」を見る問題では、選択式の問題では全国平均より正答率が低く、記述式の問題では無回答率が全ての問題の中で一番高くなっていました。必要な情報は読む目的に応じて変わるため、読む目的を明確にしたうえで、必要な情報を見つけ活用する言語活動が必要であると考えられます。

【実際の問題の抜粋】

【読んだこと】

(本を読んで分かったこと)	(読んでみて分かったこと)
○ブックカバー ・何回か折るだけで、すぐに完成する。 ・本の大きさに合わせて包むことができる。 ○ペットボトルカバー ・ペットボトルを包んで持ち運ぶことができる。	○ブックカバー ・よみがたのきを持つことができた。 ・壊れたときに、本がきずつかなかった。 ○ペットボトルカバー ・水で洗った本がきれいになった。 ・温かい飲み物が冷めにくかった。

三 山田さんは「ちいさな」の書き出しについて友達に相談し、「ちいさな」の字をくなく書いたほうがよいと、次の「読んだこと」を見直しました。あなたも山田さんな、どのように書き直しますか。あとの条件にのっとり書きましょう。

○「ちいさな」の字をくなく書いたほうがよい。
○「読んだこと」の書き出しについて友達に相談し、「ちいさな」の字をくなく書いたほうがよい。
○六十文字以上、百文字以内で書きましょう。

※上の図表は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。
※解答は、解答用紙に書きましょう。
※筆の印から書き始めよう。どちらの行を先に見よう。
※続けて書きましょう。

【中学校 国語】

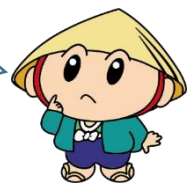
(1) 出題の趣旨

4つの大問と14の小問が出題されました。

記述式の問題において次のような力が問われました。①意図を明確にして読み手に伝わるよう言語化する力。②目的に応じて必要な情報を選び、情報と情報の関係がわかるように書く力。③読み手の立場に立って文章を読み直し、文章を整える力。

出題全体を通して、生徒が目的意識や相手意識をもって取り組める言語活動を設定することや、文章の構成・展開の工夫について、その効果を実感し、意図をもって適切に活用することの重要性について示されていました。

学校生活の中で、生徒がICT端末を活用している場面が2つの大問で取り上げられたよ。ICT端末で作成した「ちらし」に情報を加えたり情報を示す順序を変えたりすることや、作成した「スライド」を提示してスピーチを行うときに、スライドで示す情報とスピーチの内容との関係性などについて問われたよ。



(2) 結果

①成果

- ・「思考力、判断力、表現力等」を評価する問題では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の全ての内容において全国平均を上回りました。
- ・問題形式ごとの正答率では、昨年に引き続き、「選択式」「短答式」「記述式」全てにおいて、平均正答率が全国平均を上回りました。

②課題

- ・記述式の問題において、4問中3問で無回答率が全国平均を上回りました。自分の考えが相手に伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く力や、資料を用いて表現を工夫する力などの育成が課題であると考えられます。
- ・言葉の特徴や使い方に関する事項（適切な漢字を選択する、言葉の意味として適切なものを選択する）において、全国平均を下回りました。

【実際の問題の抜粋】

【ちらし】

第一中学校 美術展

毎年、秋に行っている第一中学校の美術展のお知らせです。
私たちが美術の時間につくった作品を展示します。どれも**かいしん**の出来です。

今年は、中学生による作品の説明や小学生向けの体験コーナーもあります。
体験コーナーでは、中学生と一緒に、好きな色のタイルを貼って自分だけのペン立てをつくることができます。

日時 令和7年11月15日（土） 10時～16時
場所 第一中学校 体育館
会場図

体験できる時間 (各回30分間)
①10時～ ②11時～ ③12時～ ④13時～

一 中井さんは、【ちらし】の——線部「かいしん」を漢字に変換しようとしています。漢字に変換したものとして最も適切なものを、次の1から3までの中から1つ選びなさい。

- 1 会心
- 2 改心
- 3 改新

二 中井さんは、【ちらし】に、【第一中学校のウェブページ上のお知らせ】には示されていない「会場図」を加えました。どのような目的で加えたと考えられますか。次の1から4までのうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 小学校6年生に向けたちらしであることを示すため。
- 2 ウェブページの情報と比較しやすくするため。
- 3 会場となる体育館まで迷わずに來てもらうため。
- 4 展示する作品と体験コーナーの内容や配置を伝えるため。

【小学校 算数】

(1) 出題の趣旨

「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の4つの領域から出題され、4つの大問と14の小問から構成されていました。

「数と計算」では、小数と分数の計算が出題されました。小数の加法について、整数の加法で考えるときの共通する単位を書く問題や、日常生活の問題を解決するために、伴って変わる二つの数量の関係に着目し、数量を見出す問題が出題された。

「データの活用」では、日常生活での事象を取り上げられ、目的に応じて適切なグラフを選択して判断する問題が出題された。

言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて、筋道を立てて説明したり論理的に考えたりする問題が出題されたよ。



(2) 結果

①成果

- ・算数科の平均正答率は全国平均を3ポイント上回り、出題された領域の全てで全国平均を上回る結果でした。中でも「図形」では3.8ポイント、「数と計算」では3.6ポイント上回る結果でした。
- ・「知識・技能」の観点は、全国平均を3.5ポイント上回る結果でした。
- ・無回答率の低さは、全ての問題で全国平均を上回りました。

②課題

- ・問われていることを示すグラフを選択し、理由を記述する問題¹(2)では、正答率が全国平均と同数となりました。グラフは選択できたものの、記述が条件を満たしませんでした。問われていることを適切に表現する力に課題があります。
- ・全国平均は上回ったものの、分数の加法における「通分」の考え方を問う問題の³(2)の正答率が28.2%と低い結果となりました。分数の性質や通分の考え方について、理解を深める必要があります。

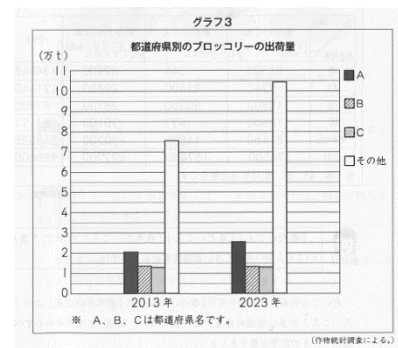
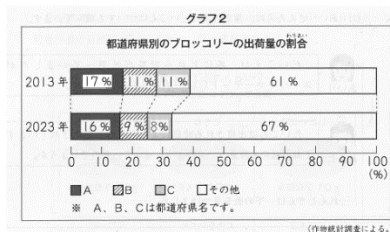
【実際の問題の抜粋】

(2) あいりさんは、自分たちが住んでいる都道府県Aのプロக்கリーの出荷量が、増えたかどうかを調べています。調べていると、2013年と2023年について、右のグラフ2とグラフ3を見つけました。

グラフ2とグラフ3を見つけたけれど、どちらか1つのグラフを見れば、都道府県Aのプロக்கリーの出荷量が、増えたかどうかわかります。

2023年の都道府県Aのプロக்கリーの出荷量が、2013年より増えたかどうかを、下のアとイから選んで、その記号を書きましょう。
また、その記号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。そのとき、どちらのグラフのどこに着目したのかわかるようにしましょう。

ア 2023年は2013年より増えた。
イ 2023年は2013年より減った。



【中学校 数学】

(1) 出題の趣旨

大問1から5では、単一の設問として出題されています。基礎的な計算力や公式の理解を問う問題から、実生活に即した応用問題まで幅広く出題されました。整数や文字式の計算を通じて基礎力が問われたり、一次関数の理解をはかったりする問題が出題され、知識・技能を中心に問う出題となっていました。

問題の後半では、平行四辺形であることを証明する問題について証明をふり返り、証明された事柄をもとにして、新たにわかる辺について関係を見出す力が問われました。「知識・技能」だけではなく、「思考力・判断力・表現力等」との二つの内容のまとまりで一体的に出題されました。

全体として、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けるとともに、日常生活や社会の事象ならびに数学の事象から問題を見出すことや、問題解決の過程や結果を振り返って統合的、発展的に考察する資質・能力が求められていました。

ICTを活用しながら条件を変えたときに成り立つ性質を見出して考察する問題や、不確定な事象をデータに基づいて考察する問題が出題されたよ。



(2) 結果

①成果

- ・数学科の平均正答率は、全国平均を3.7ポイント上回り、4領域すべてについても全国平均を上回る結果でした。特に、「図形」については5.4ポイント、「関数」については3.9ポイント全国平均を上回る結果でした。
- ・記述式の問題の正答率が、全国平均を4.5ポイント上回る結果でした。

②課題

- ・全体的に無解答率は全国平均とほぼ同じでしたが、問題の解決方法や、事柄が成り立つ理由を説明する記述式の解答の無解答率は29～34%と高く、理解や定着の個人差が大きい傾向が見られました。

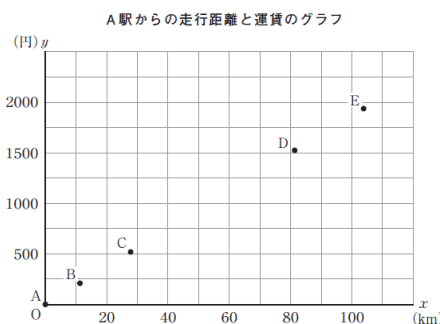
【実際の問題の抜粋】

- 8 A駅の近くに住んでいる歩夢さんは、C駅とD駅の間にあるスタジアムによく行きます。歩夢さんは、スタジアムの近くに新しい駅をつくる計画があることを知り、A駅から新しい駅までの運賃がいくらかになるのか気になりました。そこで、A駅からの走行距離と運賃をインターネットで調べ、次のような表にまとめました。

調べた結果

	A駅	B駅	C駅	D駅	E駅
A駅からの走行距離(km)	0.0	11.4	27.7	81.9	104.6
A駅からの運賃(円)	0	210	510	1520	1930

歩夢さんは、上の調べた結果を見て、A駅からの走行距離と運賃にはどのような関係があるかわかりにくく感じました。そこで、調べた結果をもとに、A駅からの走行距離を x km、A駅からの運賃を y 円とし、コンピュータを使って下のようなグラフに表しました。このグラフの点Aから点Eまでの各点の x 座標と y 座標は、それぞれA駅からE駅までの各駅のA駅からの走行距離と運賃を表しています。



次の(1)、(2)の各問に答えなさい。

- (1) 歩夢さんは、前ページのA駅からの走行距離と運賃のグラフを見て、C駅とD駅の間の走行距離は、他の駅と駅の間と比べて長いと思いました。

C駅とD駅の間の走行距離は、A駅からの走行距離と運賃のグラフの何を読み取ればわかりますか。下のアからエまでの中から正しいものを1つ選びなさい。

- ア 点Dの x 座標と原点の x 座標の差
- イ 点Dの x 座標と点Cの x 座標の差
- ウ 点Dの y 座標と原点の y 座標の差
- エ 点Dの y 座標と点Cの y 座標の差

- (2) 歩夢さんがさらに調べると、新しい駅はA駅から60.0 kmの地点につくられることがわかりました。そこで、A駅から新しい駅までの運賃がおおよそ何円になるかを予測することにしました。

A駅から新しい駅までの運賃を予測するために、前ページのA駅からの走行距離と運賃のグラフにおいて、原点にある点Aから点Eまでの点が一直線上にあるとして考えることにしました。

このとき、A駅から新しい駅までの運賃はおおよそ何円になるかを求める方法を説明しなさい。ただし、実際に運賃がおおよそ何円になるかを求める必要はありません。

【小学校 理科】

(1) 出題の趣旨

全ての大問が問題解決の過程をふまえた実際の観察、実験を想定した文脈で出題されており、その過程の中から、児童自身が問題を見だし、表現できるかどうかが問われました。また、発芽の条件を調べる実験等において、実験の条件を制御しながら解決の方法を発送する力も問われました。

記述式の問題において、結果を基に結論を導いた理由を表現できるかどうかが問われました。

全体としては、習得した知識を他の学習や生活に関連付けて考える力を問う問題が複数出題されたよ。



(2) 結果

①成果

- ・理科の平均正答率は、全国平均を2.9ポイント上回り、出題されたすべての領域で全国平均を上回る結果でした。特に、生命を柱とする領域では、2.5ポイント上回る結果でした。
- ・問題形式ごとの正答率では、「短答式」において、平均正答率が全国平均を3.3ポイント上回りました。

②課題

- ・「地球」を柱とする領域の「記述式」の問題のみ、平均正答率が全国平均を0.7ポイント下回りました。全国平均を下回った記述式の問題では、「結果を基に結論を導いた理由を表現すること」を問われており、理由を表現する力に課題であることが考えられます。

【実際の問題の抜粋】

あかりさんは【問題】を、大きいつぼと小さいつぼの赤玉土で確かめる【方法】について考えました。

あかりさんは実験を行い、得られた【結果】を下のように整理しました。

あかりさんは、【問題に対するまとめ】を考えています。

あかり

【問題に対するまとめ】は、「水のしみこみ方は、赤玉土のつぼの大きさによって、ちがいがあ」といえるね。

(2) あかりさんが下線部のようにまとめたわけを、上の【結果】を使って

【方法】

① どう明なプラスチックでできた2つの同じコップに次のことをする。

- ・4つの穴を同じようにあける。
- ・同じ高さの線を図のように引く。

これらを穴あきのコップA、Bとする。

② 土をふくろから取り出し、次のように入れる。

- ・コップAは大きいつぼの赤玉土
- ・コップBは小さいつぼの赤玉土

③ コップAに水をすばやく入れ、時間をはかり始め、水の面が同じ高さの線に下がるまでの時間をはかる。コップBも同じようにして時間をはかる。

④ 受け皿にたまった水、コップの土や水をすべて出し、②と③を全部で3回行う。

【結果】

（赤玉土に水がしみこむ時間）

	コップA (大きいつぼ)	コップB (小さいつぼ)
1回目	3秒	11秒
2回目	4秒	10秒
3回目	4秒	11秒

【中学校 理科】

(1) 出題の趣旨

全ての大問において、日常生活や社会の関わりの中で、生徒自らが事象の中に問題を見出して課題を設定し、対話によって自分の考えをより妥当なものにしたり、広げたり、深めたりしながら、科学的な探究の過程を通して解決していく力が求められた。

「知識および技能」に関しては、日常的な場面や異なる領域において、知識が概念として身に付いているかどうかを問う問題が10問出題されました。また、安全面に関わる問題も出題された。

C B T※で実施されたことで、動画やアニメーション画像、カラーの図版を使った問題が出題されたよ。



※C B Tとは、「Computer Based Testing (コンピュータ ベースド テスティング)」の略で、コンピュータを使って行う試験方式のことです。

(2) 結果

①成果

- ・【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、結果を記述する問題に関しては、全国平均7.3ポイント、消化器官の機能を選択する問題に関しては、6.6ポイント全国平均を上回る結果でした。
- ・実験の動画と実験結果の図から、どのような化学変化が起きているのか判断し、答える問題では、11.5ポイント全国平均を上回る結果でした。

②課題

- ・気圧について科学的に探究する問題について、探究の過程の見通しについて分析する問題に関しては、4.1ポイント全国平均を下回る結果でした。また、気圧の知識についての問題に関しては、4.2ポイント全国平均を下回る結果でした。

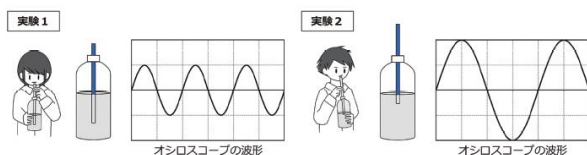
【実際の問題の抜粋】

2

理科の授業で、ストローと水の入っているペットボトルで楽器をつくり、音について科学的に探究しています。
(1)、(2)の各問いに答えなさい。



【実験】「ストロー内の空気が入る長さ(青い部分)」を変えて実験を行ったときのオシロスコープの波形を観察しました。



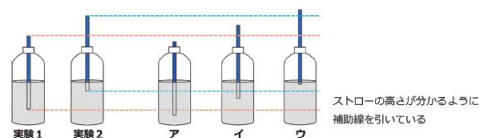
右のように【考察】しました。

【考察】

「ストロー内の空気が入る長さ(青い部分)」が、長くなるにつれて、音はだんだん低くなる。



【考察】をより確かなものにするためには、あと1つ実験を行うとよいですね。
次のア、イ、ウのどれで実験を行えばよいかな。



(1)
下線部について、【考察】をより確かなものにするために1つ実験を追加したら、上のア、イ、ウのうち、あなたはどの実験を選びますか、1つ選びなさい。
上のア、イ、ウのどの実験を選んでまちがいません。
また、上で選んだ実験を行ったときに、オシロスコープの波形から何が分かればよいか、振動数という言葉を使って書きなさい。

選んだ実験: 選択肢から選ぶ

分かればよいこと

2. こどもたちの日頃の生活や学習習慣に関する質問の結果

			調査結果のうち特徴的なもの	調査結果から考えられること
1	生活習慣	成果	①「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と回答した小学生は、いずれの項目も、3年連続全国平均を上回りました。	①生活習慣の形成には家庭の役割が大きいと考えます。多くの家庭において、こどものよりよい生活習慣形成のため、「家庭のルールづくり」がしっかりされていることがわかります。
		課題	①「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と回答した中学生は、いずれの項目も4年連続全国平均を下回りました。	①中学生では、特に「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」の割合が低い傾向にあります。中学生になると帰宅後に家庭学習や習い事等の時間が増えることが影響していると考えられます。睡眠時間の確保は、脳の発達や体の成長にも不可欠なため、帰宅後のスケジュールをしっかり立てることが大切です。
2	規範意識 自己有用感等	成果	①「自分には、よいところがあると思う」と回答した小学生は86.8%、中学生は83.3%といずれも令和元年以降の最高値となりました。 ②「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した小学生は98.1%、中学生は95.9%といずれも5年連続全国平均を上回る高い数値となりました。 ③「友達関係に満足している」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある」と回答した小学生は、全国平均を上回りました。	①「よいところがある」の回答が増えた要因としては、学校内において多様な人と関わる機会が増えたことが考えられます。学校には、担任教師以外にいろいろな大人がいてこどもたちを支援しています。また、総合的な学習の時間等の学びでは、地域の人々との関わりが増えています。授業においても対話的な活動が増え、友達から学ぶ機会が増えています。そうした中で、自分のよさを評価される場面が増え、自己有用感が高まっていると考えられます。 ②各校において策定する学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめをなくす取組の充実を図ってきました。これらの取組が子どもたちのいじめを許さないという意識の醸成に繋がっていると考えられます。 ③学校や地域がこども同士が関わる活動を大切にしていることや、家庭で安心して過ごせる環境が整っていることで、こどもが友達関係や生活に幸せを感じやすくなっていると考えられます。
		課題	①「将来の夢や目標を持っている」と回答した小中学生の割合が全国平均を下回りました。	①夢や目標を持つためには、憧れの大人の存在は大切です。様々な人の考え方や生き方に学ぶキャリア教育や、地域協働校事業を進めていくことが大切と考えます。
3	家庭生活	成果	①「学校の授業時間以外に、普段、1日当たり2時間以上、勉強している」と回答した小学生は全国平均を5.9ポイント上回る30.8%、中学生は9.0ポイント上回る39.8%となりました。	①小中学校ともに家庭学習の時間が長いほど正答率が高い結果となりました。塾などの習い事を含め、家庭での時間を学習のために有効に使っている子どもたちが多いことがわかります。
		課題	①小中学生の読書が好きと回答するこどもは減少傾向にあります。特に中学生は、全国平均より6.0ポイント低い55.6%でした。	①スマートフォンやゲームなどのデジタル機器の普及により、こどもたちの娯楽や情報収集の方法が多様化し、読書に向かう時間や興味が減少している可能性が考えられます。
4	ICT機器活用	成果	①「これまでに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を週1回以上使用した」と回答した小学生は全国平均を0.7ポイント上回る90.4%、中学生は2.1ポイント上回る94.3%となりました。 ②「ICT機器で文章を作成できる」と回答した小学生が87.0%、「ICT機器で情報を整理することができ」と回答した小学生が72.3%といずれも全国平均を上回りました。	①本市ではICT教育を推進する具体的な施策が行われ、機器の整備や教員への研修を充実させた結果、小中学校でのICT活用頻度が全国平均を上回っています。 ②本市がICT教育の充実を図り、機器整備や教材開発、教員研修に力を入れた結果、こどもたちが文章作成や情報整理のスキルを実践的に習得したと考えられます。
		課題	①「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり1時間以上、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っている」と回答した小学生は全国平均より5.1ポイント低い14.5%、中学生は全国平均より3.7ポイント低い10.0%でした。	①学校や地域が家庭でのICTを活用した学習方法や取組を周知または提供できていないことが影響している可能性があります。また、こども自身がICT機器を利用した学び方に対する動機づけが不足している点も考えられます。こうした要因により、全国平均に比べてICT活用の割合が低くなっていると推察されます。

			調査結果のうち特徴的なもの	調査結果から考えられること
5	学習活動	成果	①小学校では、近年、学習活動に関するほとんどの質問で全国平均を上回る傾向が続いています。特に「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている」、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」で昨年を上回る値となりました。	①小中学校では、「我が校の学ぶ力向上策」を策定し、全教職員での共通理解、共通実践のもと、校内の研究会等で授業の改善に取り組んでいます。特に教師が主体的・対話的で深い学びを促す授業を積極的に実施していることや、協働学習を重視した学級づくりが進められていることが、これらの好結果に寄与していると考えられます。
		課題	①中学校では、学習活動に関するほとんどの質問で全国平均を下回りました。その中でも、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」と回答した中学生は、全国平均より6.7ポイント低い56.3%でした。	①日頃の授業でこどもが主体的に発表する機会が十分でないことや、資料作成・意見を整理するスキルの指導が十分に行えていない可能性が考えられます。今後は、こどもが考えを発表する活動を増加させる授業デザインの導入、資料作成や発表の方法に関する具体的な指導の実施、また発表を積極的に評価する風土を育む指導が必要だと考えられます。
6	総合・学級活動・道徳	成果	①「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と回答した小学生は、83.3%、中学生は、77.8%となり、平成26年度以降最も高い数値となりました。 ②「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。」「人の役に立つ人間になりたいと思う。」と回答した小学生は、全国平均を上回りました。 ③「学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」「学級活動における学級での話し合いを生かし、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」と回答した小学生は、全国平均を上回りました。	①スクールE S Dくさつプロジェクトの導入により、総合的な学習の時間の授業改善が進んでいることが要因と考えられます。総合的な学習の時間の授業の進め方について、市として様々な機会に教員に対して研修会を実施したり、学校を訪問したりして支援してきました。また、総合的な学習の時間の内容の大幅な見直しを行ったことで、実践の質が高まったことも要因として考えられます。 ②これまでの地域協働校事業を進展させてスクールE S Dくさつプロジェクトを導入したことで、こどもたちが地域や社会への関心を持ち、自分の役割を実感する機会が増えたことが要因と考えられます。 ③本市では「こどもまんなかの学校づくり」を掲げ、学級会での話し合いや協働を重視した取組を推進し、こどもたちが主体的に意見交換や問題解決を行う機会が多いことが、自己努力への意識向上につながったと考えられます。
		課題	①「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。」と回答した中学生の割合は、全国平均を0.6ポイント低い90.9%となりました。	①道徳が教科化されて以来、本市では「考え議論する道徳」の定着を進めており、道徳の研修会等の取組を通して教員の意識が向上していることが、こどもたちの意識の向上につながってきていました。今回の結果を受けて、授業の充実に向けてさらなる改善を図っていきたいと考えています。
7	教科指導	成果	①小学校では、国語・算数・理科ともに「授業で学習したことは、社会に出た時に役に立つと思う」と回答した児童が全国平均を上回りました。 ②小学校では、国語・算数・理科ともに「授業の内容がよく分かる」と回答した児童が全国平均を上回りました。	①小学校では、どの学習も「将来、社会に出たときに役立つと思う」と回答するこどもが多いことから、こどもたち自身が学ぶ価値を実感し、学習課題に対して前向きに取り組むことができていると考えられます。 ②本市では、「New草津型アクティブ・ラーニング」を推進し、協働的な学びと個別最適な学びを一体的に進める授業改善を行い、主体的で対話的で深い学びを意識した指導法の導入やこどもたちの理解度を高める工夫が行われていることが、授業内容の理解度向上につながったと考えられます。
		課題	①小学校では、国語・算数・理科ともに平均正答率は、全国平均を上回っていますが、質問紙調査において「教科の勉強が好き」と回答した児童が全国平均を下回りました。 ②中学校では、国語の平均正答率は、全国平均を上回っていますが、質問紙調査において「国語の勉強が好き」「国語の授業の内容がよく分かる」「国語の授業で学習したことは、社会に出た時に役に立つと思う」と回答した生徒の割合は、全国平均を下回りました。	①要因として、学力は高いものの、学習に対する楽しさや興味を深める活動が十分でなかった可能性があります。こどもが教科の勉強が好きになるには、更なる授業改善を図っていきたいと考えています。 ②中学校で国語の正答率は高いですが、「国語が好き」「授業が分かりやすい」「将来役立つ」と感じていないのは、授業が楽しさや実生活とのつながりを示せていないと考えられます。教員が授業の進め方を見直し、社会での具体的な活用例を取り入れ、こどもたちがもっと興味を持てる内容にし国語への関心を高める工夫を行います。

3. 第3期草津市教育振興基本計画の達成状況

基本方向1 こどもの生きる力を育む

※肯定回答率とは、質問に対して「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答したこどもの割合を示しており、％で表示しています。

目標1：豊かな心と健やかな体の育成

(%)

	施策評価の基準となる質問項目		R3	R4	R5	R6	R7
施策3	道徳教育・人権教育の推進 「道徳の授業では自分の考えを深めたり学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思う」の肯定回答率	小	83.3	79.1	83.9	87.1	88.7
		中	89.8	86.0	86.1	88.6	90.9
施策4	いじめを根絶する取組の推進 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」の肯定回答率	小	98.0	97.3	98.3	98.3	98.1
		中	96.9	96.5	96.9	96.4	95.9
施策6	社会性や豊かな情操を育てる教育の推進 「自分にはよいところがあると思う」の肯定回答率	小	79.6	81.1	82.8	83.8	86.8
		中	75.0	74.5	74.7	78.8	83.3

目標2：確かな学力の育成

(%)

	施策評価の基準となる質問項目		R3	R4	R5	R6	R7
施策8	ICTを活用した教育の推進 「前年度までに受けた授業でICT機器を週1回以上使用した」の肯定回答率	小	75.3	92.2	84.5	88.8	90.4
		中	77.8	90.6	91.6	94.9	94.3
施策9	読書教育の推進 「読書が好き」の肯定回答率	小	質問なし	75.2	74.0	質問なし	70.5
		中	質問なし	61.2	57.4	質問なし	55.6
施策10	基礎学力向上のための取組の充実 「授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいた」の肯定回答率	小	80.6	77.8	79.6	83.7	80.8
		中	82.2	76.6	76.5	76.2	75.1

目標4：学校経営の充実

(%)

	施策評価の基準となる質問項目		R3	R4	R5	R6	R7
施策15	地域の活力を生かした特色ある学校経営の推進 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う」の肯定回答率	小	73.9	72.9	78.8	81.2	83.3
		中	69.4	66.9	71.7	76.9	77.8

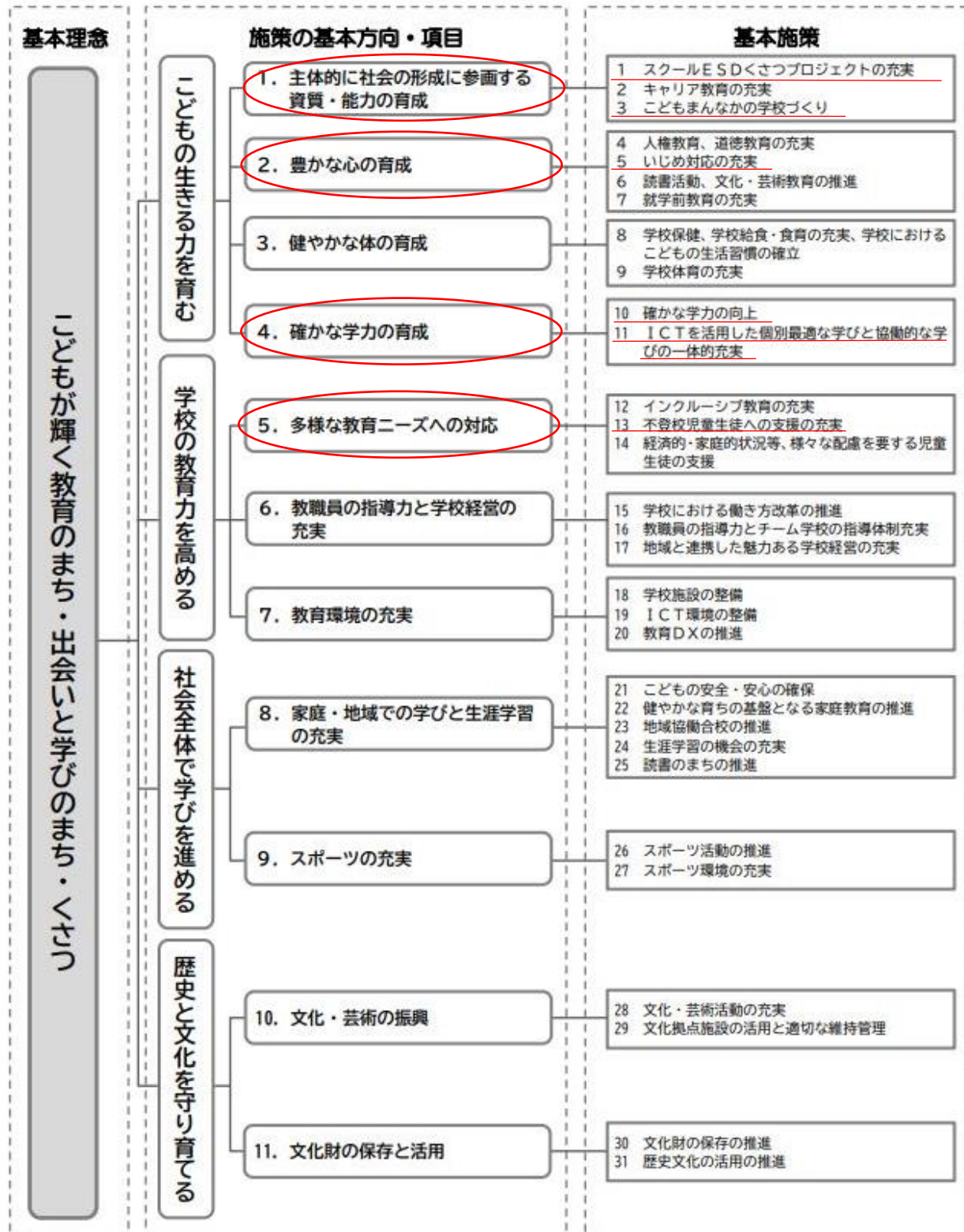
こどもの日頃の生活や学習習慣に関する質問項目のうち、施策評価の基準となるは質問について、令和4年度からの経年を一覧表にしました。

令和7年度の数値の下の方の矢印は、令和3年度からの傾向を総括したもので、第3期草津市教育振興基本計画に基づき行ってきた教育施策は、小中学校ともに、「読書教育の推進」「基礎学力向上のための取組の充実」以外は、それぞれの目標を概ね達成したと言えます。目標を十分に達成できなかった項目については、第4期計画において目標達成に向けての教育施策を実施していきます。

4. 第4期草津市教育振興基本計画（令和7年度から令和11年度）の施策体系

年度当初に実施された本調査の結果分析は、昨年度までの第3期教育振興基本計画の教育施策評価として行いました。その成果や課題は、第4期計画に引き継ぎ、本市の教育のより一層の推進を図ります。下記に第4期計画の施策体系図を掲載し、関連教育施策を明記するとともに、次項に今後の手立てを示します。

【図2】第4期草津市教育振興基本計画施策体系図



5. 調査結果を受けての今後の手立て（※施策番号は第4期計画に準じています。）

① 主体的に社会の形成に参画する資質・能力を育成するため、「スクールESDくさつプロジェクト」の充実を図ります。【施策1】

- ➡ 2学期以降、ESDの実践を充実させるために、ESDティーチャー認定講習を受けている各校のESDマネジメントリーダーが、新たな単元構想に基づいた具体的実践を行います。年度末までに各校に1人以上のESDに精通した「ESDティーチャー」が認定されることをめざします。
- ➡ 草津市全体でESDの学びをさらに深めるために、3学期に、全児童生徒約1万人が参加して「ESDフェスタ」を開催し、各学区の実践を発表し合い交流します。

② こどもが意見を表明する機会を保障し、「こどもまんなかの学校づくり」を推進します。【施策3】

- ➡ 各教科の学習においては、こどもたちが自分の意見や考えを話したり、互いに考え合ったりする場面をより一層重視していきます。また、学級活動や児童会・生徒会活動等の特別活動では、学校や学級をよりよくするためにこどもたちが考えた提案を大切に、具体的な取組や行動につなげていきます。
- ➡ 市内中学校生徒会の交流の場・学びの場である「こどもサミット」での考えや意見を尊重し、学校・地域での実現に向けた取組を進めていきます。

③ いじめの早期発見、組織的対応と根絶に向けた取組の充実、不登校の未然防止と支援体制の充実を図ります。【施策5】【施策13】

- ➡ いじめ問題の根絶に向けて、こどもが主体となったいじめ未然防止の取組をより進めるとともに、生徒指導主事主任会において全国学力・学習状況調査のいじめに関する結果・分析を共有します。また、市教委の学校問題解決支援コーディネーターが、学校とともにアセスメントやプランニングを行ったり、関係機関との連携を図ったりすることで、いじめ事案へ適切に対応していきます。
- ➡ 登校支援室加配教員や関係機関との連携を推進し、不登校児童生徒への支援体制を充実させていきます。また、ICT機器を活用した心の健康観察により、こどもの様子の把握に努めるとともに、登校支援室の環境整備を進めます。

④ ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図るため、「New草津型アクティブ・ラーニング」の実践を充実（推進）し、教員のICT活用指導力の向上を図ります。【施策11】

- ➡ 「New草津型アクティブ・ラーニング」研究指定校における実践を市内全小中学校で展開するために、ICTを活用した学習づくりの好事例を共有します。また、全国学力・学習状況調査の結果を分析し、学校ごとの弱みと具体的改善策を提示し、ICT機器を効果的に活用した授業の充実を図ります。
- ➡ ICTスキルアップアドバイザーやICT支援員と協力し、教員のICT活用指導力向上のためのボトムアップ型研修や、上級者向け研修を行いターゲットをより絞った支援や情報提供を行います。

⑤ 結果分析を活用し、各校が「学ぶ力向上策」の改善・見直しを行います。

- ➡ 各校は、調査結果と学校経営上の相関についての分析を行い、教職員全員で「我が校の学ぶ力向上策」の見直しとともに、2学期以降の「調査結果を踏まえた取組」を決定し、実践します。市教委は、各校の結果分析や具体的な取組を支援していきます。各校は、年度末に実践内容と目標の達成状況を分析し、学校長が学校経営報告会において成果と課題を公表します。

⑥ 読書好きなこどもを育てるため、こどもの読書活動を推進します。【施策6】

- ➡ 「草津市読書のまち推進計画」で掲げる「読書のまち」の実現を目指して、読書環境を整えたり、読書ボランティア等との連携・協力による読書支援を充実させたりして、家庭や地域、学校におけるこどもたちの読書活動を推進していきます。